



校長 斉木 邦彦

「がんばれ！西高生」「くじけるな！西高生」

本校でも昨年はいろいろな出来事がありました。暑い夏の時期、校内の自動販売機が被害を受け皆さんに迷惑をかけました。同じ頃、県教育委員会での審議を経て国際バカロレアの教育プログラムの本校への導入が決まりました。本校ではこの決定を受け外部から委員を招き導入検討委員会を定期的に開催し準備を進めているところです。

バカロレアの資格を取得して海外の大学に進学したい、国内の大学にバカロレア枠で進学したい、このような希望を持つ生徒が必要な科目を選択する、それだけが導入の目的ではありません。国際バカロレアの掲げる理念の中に「探究心、知識、思いやり」に富んだ若者の育成」という表現があります。このことを強く意識し、教育課程全体をあらゆる面から再検討していくことが求められているのだと考えます。

西高は数年後を見据えて少しずつ変化していくと思いますが、目標を掲げた数年間の道のりは、それまでの在籍する西高生の成長を促すものでなければなりません。それとともに、その時その時の西高生のがんばりこそが、目標に向けた変化の道のりを確実なものにするのです。1年生、2年生、そして3年生の皆さんに期待しています。

さて、センター試験から始まる大学受験に立ち向かう3年生の皆さん。選抜試験ですから残念な結果になってしまうこともあります。しかし「残念な結果」とは長い目で見るとどうなのでしょう。気持ちを切り替え、第二、第三志望の大学に入学、そこでの勉強に興味を覚えその世界に引き込まれ、思い描いていなかった人生を送る、ということはいくつもあることです。よくあるというよりも、多くの大人がそうなのです。

つらいと思うのは、何かが実現しなかったから、何かが思うようにいかなかったからでしょう。しかし、その何かが「ない」状態は必ず別の何かが埋め合わせをしてくれます。つらい時も決してくじけないでください。甲府西高は、皆さんを常に励まし、そして皆さんが新しい可能性を見つける場所、そういう学校でありたいと考えます。

西高生の皆さんにお願いします。勉強や部活動、そして大学受験においては、「一つのこと」に集中してがんばる強い気持ちを持って臨んでください。それと同時に、その一つのことにとどまらないことも時には必要です。つまり「新たな自分に向かう、くじけない柔軟な心」もバランスよく持ってください、ということなのです。

今年一年の皆さんの健闘を心よりお祈り申し上げ、以上で、私からの話を終わります。ご静聴ありがとうございました。今回は何とか間に合い(ふっ) (1月6日、新しい年を迎えるにあたっての校内放送より)

充実したキャリアサポート(今を知り、未来を見つめるために)

毎年1年次では、進路選択の幅を広げるためのいろいろなガイダンスを行っています。10月の職業編に続き、12月16日には進学編として、医学・看護学・保健医療学・工学(機械・情報)・理工学・薬学・心理学・

国際関係学・経済経営学・外国語学・英文学の12講座を設け、それぞれ専門の大学の先生方から講義を受けました。



英文学に参加して

イギリスの物語を読みました。全て理解できたとはいえませんが、挿絵などから雰囲気はつかむことができました。「物語」では、そこにある問に対して自分自身がどのような答えを持ち、どのような言葉を使えば相手に伝わるのかということをよく考えることが大切という先生のお話から、伝える手段としての言葉というものの重さに改めて気付きました。

1年 五味佳音(押原中)



国際関係学に参加して

「これまでの世界が一気に広がった」と感じました。国際関係学などの外国の話なのかなと思っていたのですが、話は山梨のことであり、山梨に住んでいるのに知らないこともたくさんあって、それも外国と強くなつていっていることを学ぶことができました。「世界を知りたいのなら、足元を見る」ととても素敵な言葉だと思いました。大学選びから海外留学のお話も聞け全てが新鮮でした。

1年 坂本菜南子(竜王北中)



理工学に参加して

「統計学」は何となく想像できますが「数理工学」という言葉は初めて知りました。現実の数学とは関係のなさそうな問題を数学の問題として考えるという学問であり、その結果を別分野に生かすことができるなんて驚きでした。「どうして人はバツと見ただけの情報のみで判断すると騙されるのか」も具体例から理解できました。小さい情報もその詳細までしっかり掴むことの大切さを学びました。

1年 小林 環(上条中)

情報学に参加して

「コンピューター」は便利で今の生活に欠くことはできないモノなのですが、人工知能(AI)が発達することで、人間が作ったモノが人間を苦しめることになるというコンピューターの恐ろしさもあと知りました。しかし、シミュレーション技術の向上は医療や自然災害、生物学など幅広い分野に大きく貢献している現実から、コンピューターの新たな素晴らしさや将来性のほうにより魅力を感じました。

1年 米山真白(山梨大学附属中)

vol.48 2017.2 甲府西高情報誌

nstage

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

西高のステージへ!



information

66th 鳳凰祭

2017年7月1日(土) 一般公開 9:30~14:00
会場 甲府西高等学校

西高最大のイベントです。ぜひ楽しんでください。



学校説明会

2017年7月23日(日)13:00~
会場 コラニー文化ホール

入試情報や進路状況、西高ライブを紹介しします。



オープンスクール

2017年9月2日(土)9:00~
会場 甲府西高等学校

体験授業や在校生との懇談会、部活動見学など西高のリアルを体験してください。



Kofu Nishi High School

山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1
TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164
URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2017.2 編集/広報委員会

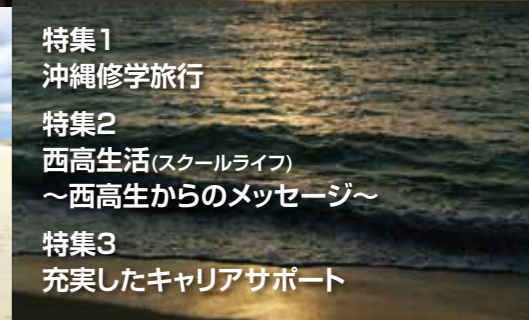


*stage /steɪdʒ/

「立っている場所」が原義 — ㊦ ㊧ ~s/-z / ㊨

- 1 舞台、ステージ(世界の象徴)
- 2 [活動の]舞台、場所 [for, of]
- 3 (発達・発展などの)段階、時期

- 用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)
- 2 N-stage 西高生の活動舞台



- 特集1 沖縄修学旅行
- 特集2 西高生活(スクールライフ) ~西高生からのメッセージ~
- 特集3 充実したキャリアサポート

沖縄修学旅行

— 平和・文化・美しい自然を満喫した4日間 —

2年次生は12月12日から3泊4日で沖縄本島への修学旅行に行ってきました。

西高生活 (スクールライフ)

～西高生からのメッセージ～

1日目

羽田空港
↓
那覇空港
↓
沖縄美ら海水族館見学
↓
〔読谷村泊〕



2日目

班別マリン体験
カヌー体験
タクシー研修
↓
〔読谷村泊〕



3日目

クラス別
平和学習
(各地)
↓
国際通り
↓
〔那覇市泊〕



4日目

首里城見学
↓
クラス別
市内見学
↓
山梨へ帰郷



1年
加藤 遥香
Haruka Kato
(甲府北西中学校出身)

西高へ入学して1年。私は今充実した毎日を送ることができています。私は西高へ入り、校訓である「自己を知り 自己を深める」のとおり自ら学ぶことの楽しさを知りました。学習意欲をもった仲間達と県下唯一の65分授業のもと切磋琢磨する毎日はとても楽しいです。西高生は部活や学園祭など何事にも全力で取り組んでいます。皆さんも「チーム西高」の一員となり、輝く毎日を送りませんか。



2年
小林 蒼一郎
Souichiro Kobayashi
(梶島中学校出身)

「西高生は欲張りだ。」僕たちはよくこう言われます。勉強だけでなく、部活にも全力で取り組む。当たり前のことかもしれませんが、それを普通にこなすのはそう簡単なことではありません。しかし、西高に来ればそれも実現できます。そして、それが実現できれば、高校生活は間違いなく充実したものになります。みなさんも、西高で「欲張り」な高校生活を送りませんか？



3年
名取 歩美
Ayumi Natori
(梶形中学校出身)

西高で過ごした3年間はとても充実していた。あっという間でした。同じ目標をもち、互いに切磋琢磨しあう仲間や日々熱心に指導してくださる先生方との出会いは私の宝物です。難化する勉強と部活動の両立は大変な面もありますが、県下最大の盛り上がりを見せる鳳凰祭で得た達成感、もっと頑張ろうと思うことができます。中学生の皆さん、勉強以外のこともたくさん学べる西高で素敵な3年間を過ごしてみませんか。



1年
中込 智也
Tomoya Nakagomi
(竜王北中学校出身)

西高に入学して、今まで小さな世界にいたのだと実感しました。仲良かった友達との別れ、そして高校での新しい出会い。不安だらけの毎日でしたが、今となれば仲間と共に充実した西高生活を送っています。私にとって中学校生活も仲間なしでは過ごしていけませんでした。中学生の皆さん、残りの中学生生活、仲間と共に全力で楽しんでください。西高で待っています。



2年
服部 佳央
Kao Hattori
(山梨大学附属中学校出身)

西高で過ごしてきた2年間。西高で私は背中を押してくれるたくさんの仲間に出会うことができました。寒い冬が終わると、私も3年生になります。受験生となりますが、部活動では総体もあり最後の鳳凰祭もあります。これからの1年は、私にとってきつかけがえのない時間になると思います。高校生活の集大成として、仲間とともに輝けるように自分を磨いていきたいと思っています。



3年
河村 晃輝
Kouki Kawamura
(白根御勤使中学校出身)

朝、教室のドアを開けるとみんなの笑顔が広がっている。私はこんな西高が大好きです。課題が多くて大変な時期もありましたが、頑張った分だけ自分に返ってくるのが実感できました。また、困った時には助けてくれる仲間が必ずいました。西高は部活動も熱心であり、私はテニス部で部長を務めたことで多くの学びを得ました。西高での3年間があったから今の自分があります。西高はひとまわりどころでなく、百まわりも成長させてくれる場所です。

「先端研究・技術体験プログラム～東京大学大学院施設見学～」

12月3日(土)

大学院での研究ってどんなもの？
—金属ナノクラスターで拓く触媒の化学を例に—



本校卒業生で東京大学大学院博士課程2年の村松悟さんに母校である西高で大学院での研究内容から大学で学ぶということについて講義をしてもらいました。研究内容はもちろん大学院での時間割や学生生活について、また大学・学部生、大学院修士また博士課程のプロセスについても知ることができました。参加生徒も「気になったところは最後まで学ぼう」、「今のうちから自分で課題を見つけられるようになりたい」、「自分も大学で学んでいくイメージがつかめた」など、これから高校生活を続けていく上での意識が大きく高まった講義でした。

2月4日(土)

東京大学大学院 佃研究室 施設見学



12月の村松さんの講義を受け、実際に東京大学大学院を訪問しました。当日は佃達哉教授の特別講義を聴くことができ、実際に実験装置なども見学でき「金属ナノクラスター」について理解できると同時に「大学で研究する」ということを具体的にイメージすることができました。

「研究はエキサイティングだ。研究はやれば結果がでるとは限らない、でも成功すればそれは世界でひとつだけの自分の研究ができあがる」一番印象に残った村松さんの言葉だ。私はまだ化学を学習していないが、実験室を見てひとつだけ感じたことは、私たちの目には見えない世界をこんなにも大きな装置を使って研究しているということだ。小さな世界に目を向け、次の新しいことにつなげていく。すごいなと思った。私はまだ将来自分がどの道に進むのか決めきれていない。しかし、深めたい学問を研究できるように、今できることを精一杯したいと改めて思った。 1年 丹沢美結(山梨大学附属中)

沖縄への修学旅行を振り返って

沖縄では、青い海や磯の香り、琉球文化や料理など、現地では味わえないたくさんの経験ができました。私は、海に入ったらすぐそこに魚が泳いでいたことにとても驚きました。

また、修学旅行はただ楽しいだけではなく、一番の目的である平和学習を通して、今、家族や友達、大切な人が近くにいると笑っていられたことは決して当たり前ではなく、幸せなことなのだと改めて感じることができました。

非日常的な生活をしているなかで、友達の新たな一面を発見できたり、今まで以上に仲が深まったりして、たくさんの思い出やハプニングも含め、この4日間はとても有意義な時間になりました。それは一緒にいてくれた友達や、私達の修学旅行を支えてくれた両親や先生方のおかげです。ありがとうございました。

修学旅行委員会 委員長 2年 鈴木彩乃(若草中)



修学旅行事前学習 ～基地問題ディベート～

「沖縄の米軍基地は撤廃すべきである。是か否か」という論題でディベートを行いました。当日はマスコミの取材もあり、より白熱した議論となりました。生徒の講評では、沖縄県民と日本国民では「安全・安心」の内容が異なることが指摘されました。また、教頭先生からは沖縄の歴史という視点で議論を振り返るようアドバイスをいただきました。立場によって見え方が異なる沖縄の「現在」について、また「過去」そして「未来」についてじっくりと考える良い機会となりました。

